

## 謝罪文

この度は、弊社代表取締役 中谷直登がTwitterアカウント上にて不適切な発言を行いましたこと、深くお詫び申し上げます。件のツイートは、一個人としても、企業やメディアの代表者としても、許されるものではございませんでした。

2020年7月2日夜、私 中谷直登は、私個人のTwitterアカウント上にて、次のようなツイートを行いました。  
"正直今どき海外の俳優とかを「イケメン俳優👉」ってキャッキャしてるのオバサンだけだと思っただよね🤔"  
👉" (原文まま)

このツイートは、女性の方々、そして弊社運営のWebメディア「THE RIVER」の読者の皆様を裏切り、失望させてしまうものでした。あらゆる立場の人々を陥れ、傷つけてしまいました。

件のツイートを投稿した直後から、多数のお叱りのお言葉を頂きました。この愚かな投稿をしてしまった時には気付いていなかった深刻な問題を痛感し、深く恥じ入り、心から後悔しています。不適切かつ不必要な言葉を、無自覚なままに使用してしまいました。

また、私が同アカウントにて9~10年前に投稿していたツイートの一連にも同様のご指摘を頂いていることを確認しております。当時から、私の中には女性や、様々な背景を持つ方々に対する誤った考えが根付いていたのだと気付かされました。想像力が欠落しており、恐ろしく無知で、悪質で、考えの及ばぬツイートでした。これらは無自覚のものでしたが、無自覚だからこそ恐ろしく、救いようのないものだと思います。過去、そして現在の自分自身を恥ずかしく思っています。私が間違っていました。本当に申し訳ございませんでした。

私が設立しましたWebメディア「THE RIVER」は、『ポップカルチャーで世界を変える』をモットーに、ポップカルチャーを通じて様々な世界に触れ、楽しみ、学び、世界をより良くすることを使命としていました。出来得る限り公平で、誠実な記事・情報の提供を心がけてきました。しかし、編集長を名乗っていた私自身に、無知、無学や無配慮の性格があったこと、心から情けなく思っています。

自身の不適任を深く恥じ入り、2020年7月6日を持ちまして、私は編集長を退任します。

今後の体制につきましては、第三者の意見を取り入れ、社内で慎重に検討し、メディアとしての正しい在り方を模索して参ります。

正式な決定までは、私を除いたスタッフによる合同編集体制にて運営させていただきます。

私は独善的で、無学で、酷く偏った人間であったと、この経験を通じて深く自覚し、反省しています。メディアの編集長を名乗る身としては、まったく不適格であると思います。もし、お許しを頂けるのであれば、人としての致命的な誤りを認め、より良い人間に成長するための猶予を与えて頂ければ、今の私がそれ以上望むことはございません。

この度は本当に申し訳ございませんでした。心からお詫び申し上げます。

2020年7月6日  
株式会社riverch  
中谷 直登